

京都府流域下水道事業経営審議会第1回投資部会（開催結果）

1 日 時 令和2年8月27日（木） 14時～15時30分

2 場 所 ルビノ京都堀川 2階 加茂の間

3 出席者 委 員 5名中5名出席

京都府 中島建設交通部副部長、市田建設交通部技監
永濱流域下水道事務所長、安田水環境対策課長
藤原水環境対策課参事 他

4 結果概要

- 審議会委員の互選により田中部会長を選出。
- 京都府から以下の議題について説明し、審議。
 - ア 投資試算に関する考え方
洛南浄化センターE2系増設等の施設増設、ストックマネジメント計画に基づく改築更新、耐震化・耐水化の事業の必要性等
 - イ 今後の必要投資額
上記に基づいた必要額を試算
- 考え方や投資額に関して見直しを要する内容はなく、今後事業を進めていく上での意見をいただいた。

5 主な意見

（田中部会長）

- ・木津川流域下水道についても長期的にみれば将来人口は減少傾向にあり、施設設計する際には過大設計とならないよう、不足する施設、能力など将来予測を踏まえて十分な精査が必要。また、雨の問題も重要で、昨年度本省から、浸入水が初めて水処理で対応可能という見解も踏まえて、適切に検討していく必要がある。
- ・耐水化は外水からだけでなく、雨天時浸入水による内側からの施設浸水についても検討が必要。

（三宮委員）

- ・10年間の予算見通しではピークが重ならないよう配慮されている。改築更新においては、状態監視保全となる施設もあるので、それらの更新時期を逸しないように注意が必要。
- ・また、改築更新は供用しながらの場合が多く、現場毎に仮設が異なるため、新設、増設以上に現場をしっかりと確認の上、設計することが重要。

（戸田委員）

- ・宮津湾のポンプ場も重要な施設なので、詳しい浸水深を調べていただき耐水化の検討が必要かどうか調べていただきたい。

（西垣委員）

- ・人口減少で施設に余裕ができているところは、この10年間では不要でも、長期的には施設の縮小など検討が必要。

(藤木委員)

- 気候変動に伴う雨の降り方の変化や公共下水道管渠の老朽化、維持管理不足等により、分流式であっても汚水処理システムへの雨の影響が今後懸念される。最終的に流域下水道の処理場へしわ寄せがくるので、中長期的には雨水浸入対策を考えておかないといけない。
- 耐水化において、風水害の場合は通常の下水道施設に不具合が発生しなくても停電で機能が停止する恐れがあるので、非常用の電源設備が堅牢であって、かつ非常時も燃料が供給できるシステムになっているかについても確認していただけるとよい。
- 財政計画上は標準耐用年数で減価償却を行い、それをベースに負担金等を見込んでいるのに対して、投資計画上は目標耐用年数で改築更新を検討しているという考え方の相違がある。財政部会とのつなぎの部分でいろいろなパターンを計算してみて、将来問題とならな
いか検討することが必要。

以上